

ページ	誤	正																																				
11	「1-3-1 津液も食べ物から作られる」の本文の上から2行目 ～汗・尿・涙・唾・涕・涎なども～	涕のルビの変更 なみだ⇒はなみず に変更																																				
16	本文の上から3行目 陰陽のバランスが崩れて陰の力が強いと～	陰陽のバランスが崩れて陽の力が強いと～																																				
21	五行の配当表の3列、6列、7列目の修正 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>五体</td><td>筋</td><td>脉</td><td>筋</td><td>皮膚</td><td>骨</td></tr> <tr><td>五志</td><td>怒</td><td>喜</td><td>思</td><td>憂</td><td>恐</td></tr> <tr><td>五華</td><td>爪</td><td>面</td><td>唇</td><td>体毛</td><td>髮</td></tr> </table>	五体	筋	脉	筋	皮膚	骨	五志	怒	喜	思	憂	恐	五華	爪	面	唇	体毛	髮	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>五体</td><td>筋</td><td>脉</td><td>肉</td><td>皮膚</td><td>骨</td></tr> <tr><td>五志</td><td>怒</td><td>喜</td><td>思</td><td>悲</td><td>恐</td></tr> <tr><td>五支</td><td>爪</td><td>毛</td><td>乳</td><td>息</td><td>髮</td></tr> </table>	五体	筋	脉	肉	皮膚	骨	五志	怒	喜	思	悲	恐	五支	爪	毛	乳	息	髮
五体	筋	脉	筋	皮膚	骨																																	
五志	怒	喜	思	憂	恐																																	
五華	爪	面	唇	体毛	髮																																	
五体	筋	脉	肉	皮膚	骨																																	
五志	怒	喜	思	悲	恐																																	
五支	爪	毛	乳	息	髮																																	
24	「十二経絡の循環ルート」図の中 前肢厥陰肝経	タイトルの「十二経絡の～」を「十二経脈の～」に変更 後肢厥陰肝経																																				
25	(1) 前肢大陰肺経 (ぜんしたいいいんはいけい)	(1) 前肢太陰肺経 (ぜんしたいいいんはいけい)																																				
26	(4) 後肢大陰脾経 (こうしたいいいんひけい)	(4) 後肢太陰脾経 (こうしたいいいんひけい)																																				
27	(8) 後肢厥陰腎経 (こうしけついいんじんけい)	(8) 後肢少陰腎経 (こうしょういんじんけい)																																				
29	(12) 後肢厥陰肝経 (こうしけついいんかんけい)	(12) 前肢厥陰肝経 (ぜんしけついいんかんけい)																																				
34	【五臓と器官組織の関係】の表の中 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>五臓</td><td>肝</td><td>心</td><td>脾</td><td>肺</td><td>腎</td></tr> <tr><td>五支</td><td>爪</td><td>面</td><td>唇</td><td>毛</td><td>髮</td></tr> <tr><td>五志</td><td>怒</td><td>喜</td><td>憂</td><td>思</td><td>恐</td></tr> </table>	五臓	肝	心	脾	肺	腎	五支	爪	面	唇	毛	髮	五志	怒	喜	憂	思	恐	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>五臓</td><td>肝</td><td>心</td><td>脾</td><td>肺</td><td>腎</td></tr> <tr><td>五華</td><td>爪</td><td>面</td><td>唇</td><td>毛</td><td>髮</td></tr> <tr><td>五志</td><td>怒</td><td>喜</td><td>憂</td><td>悲</td><td>恐</td></tr> </table>	五臓	肝	心	脾	肺	腎	五華	爪	面	唇	毛	髮	五志	怒	喜	憂	悲	恐
五臓	肝	心	脾	肺	腎																																	
五支	爪	面	唇	毛	髮																																	
五志	怒	喜	憂	思	恐																																	
五臓	肝	心	脾	肺	腎																																	
五華	爪	面	唇	毛	髮																																	
五志	怒	喜	憂	悲	恐																																	
50	〈チェック表の使い方〉の3行 ～場合は該当する者すべてに○をつけます。	～場合は該当するものすべてに○をつけます。																																				
50	「肝」のチェック表の基本穴のツボ 行間、期門、三陰交	行間を削除する																																				
51	「心」のチェック表の基本穴のツボ 心俞、気海、少衝 / 神門、三陰交、心俞	心俞を削除する																																				
52	「肺」のチェック表の基本穴のツボ 天突、尺沢、肺俞	肺俞を削除する																																				
52	「腎」のチェック表の基本穴のツボ 然谷、関元、腎俞 / 三陰交、中極、通理	然谷と通理を削除する																																				
52	「気虚」のチェック表の基本穴のツボ 太衝、天枢、肺俞 / 腎俞、臍中、陰白	「気虚」の虚を削除して⇒「気」に変更 太衝と陰白を削除し、身柱を追加する 天枢、肺俞、身柱 / 腎俞、臍中																																				
53	「血虚」のチェック表の基本穴のツボ 膈俞、三陰交、間使	「血虚」の虚を削除して⇒「血」に変更 間使を削除する																																				
53	「血虚」のチェック表の虚証の項目の上から6行目 風邪に当たることを嫌う	風に当たることを嫌う																																				
55	下から4行目 ～陰証、陽証を導き出	～陰証、陽証を導き出す。																																				
61	「八綱弁証のパターン」のチャート図の上から4列目 実：表熱熱証	「八綱弁証のパターン」のチャート図の上から4列目 実：表実熱証																																				
63	「11-2 治側の第一は治病求本」の本文を全て変更  病気には「本」と「標」があります。本と標は相対的な関係で、本は病気の原因を含む病気の根本、標は病気の根本から外れて表面に現れる症状のことで、身体の内側に現れる症状は本、外側は標、正気と邪気の関係では、本は正気の減少、標は邪気の種類。本は初めからあった病気、標は本の影響で表れた症状です。原則として治療は標を治療することを優先します。この事を「標治法」といいます。主に対症療法を言います。緊急かつ救急的には標を優先し、その後で本を治療します。	病気には「本」と「標」があります。本と標は相対的な関係で、本は病気の原因を含む病気の根本、標は病気の根本から外れて表面に現れる症状のことで、身体の内側に現れる症状は本、外側は標。正気と邪気の関係では、本は正気、標は邪気の種類。本は初めからあった病気、標は本の影響で現れた症状です。治病求本とは、「病を治療するときは、必ずその本質を求めよ」という原則です。本とは病気の本質という意味で、病気を治療するときは病因病理を明らかにして、必ずその病気の本質を明らかにするという意味です。 治則の原則は治病求本です。これを「本治法」ともいいます。ただし、急性症状などの場合は標を治療することを優先にします。このことを「標治法」といいます。主に対症療法を言います。緊急かつ救急的には標を優先しその後で本を治療します。																																				
65	後肢太陰胃経	後肢陽明胃経																																				
65	前肢陽明脾経	後肢太陰脾経																																				
65	前肢少陽胆経	後肢少陽胆経																																				
65	前肢厥陰肝経	後肢厥陰肝経																																				